

歯医者さんと患者さんですすめる社会貢献



TOOTH
FAIRY

日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION
For Social Innovation

TOOTH FAIRY

トゥース フェアリー

活動報告書 2017



特集1 世代をこえて ぼくたちにとって特別な場所

小児(1型)糖尿病の子どもとサマーキャンプ

特集2 私がミャンマーに行く理由

ミャンマー歯科ボランティアツアーで呼び起こされるもの

日本財団

活動理念

痛みも、希望も、未来も、共に。

Share the pain. Share the hope. Share the future.

一つの地球に生きる、一つの家族として。

人の痛みや苦しみを誰もが共にし、

「みんなが、みんなを支える社会」を日本財団はめざします。

市民。企業。NPO。政府。国際機関。

世界中のあらゆるネットワークに働きかけます。

知識・経験・人材をつなぎ、ひとりひとりが自分にできることで社会を変える、

ソーシャルイノベーションの輪をひろげていきます。



トウス フェアリー TOOTH FAIRYとは？

TOOTH FAIRYは全国の歯科医師と患者さんの協力により、治療上撤去した不要な金属を集め寄付に変え、難病や貧困と闘う子どもたちに、夢と笑顔をプレゼントするプロジェクト。

周囲から見えないところで孤立し、不安を抱えながら生きている難病の子どもたちと家族の心がやすらぐように。

貧困のために学校に通うことができないミャンマーの子どもたちが、将来を夢見る力をはぐくむように。

ちいさな金属のかけらが、子どもたちに、大きな笑顔を届けています。

治療によって

撤去された



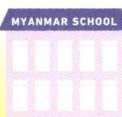
役目を終えた金属👉が

うまれかわり

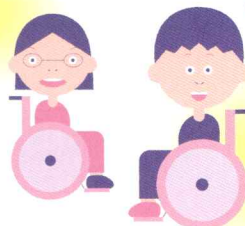


子どもたちへ

夢と笑顔を
プレゼント



▲ ミャンマーの学校建設



▲ 国内の難病の
子どもたちの支援

「TOOTH FAIRYプロジェクト」 10年目を迎えて

2009年6月にスタートした社会貢献活動「TOOTH FAIRYプロジェクト」は早くも10年目を迎えました。参加歯科医療機関数も約6,600を数え、これまで寄付された歯科撤去金属等の総額は14億4,000万円に達する大規模な寄付プロジェクトに発展しております。

日本歯科医師会が協力し、日本財団が主体となって実施している本プロジェクトは、治療で不要になった歯科撤去金属を患者さんのご理解の下に参加歯科医療機関が寄付し、そして寄付された金属を日本歯科医師会の立会いの下、換金して得た資金等で進めている活動です。難病や障がいを抱える子ども達とその家族を支援し、安らぎや休息などを提供する事業や、ミャンマー国での学校建設事業等の支援活動を展開しています。ミャンマーでの学校建設はこれまで36校の建設に至り目標の50校も近づいて参りました。

2016年度からは、2020年東京パラリンピック大会の成功とパラスポーツの振興を目的として設立された日本財団パラリンピックサポートセンターと協力し「障害者トップアスリートへの歯科支援」の実施も始まりました。

本プロジェクトは、私たち歯科医師にとっては、歯科撤去金属の有効活用を促すツールとして、患者さんとの信頼関係を築くきっかけにもなるものです。

より多くの歯科医療機関が参画して成果を実感し、患者さんに伝えていただくことで、今後とも本活動が、歯科界の果たすべき役割のひとつとしてさらに発展を続け、少しでも多くの支援等につながることを心から祈念しております。



公益社団法人
日本歯科医師会 会長
堀 憲郎

小児(1型)糖尿病の子どもとサマーキャンプ 世代をこえて ぼくたちにとって特別な場所



参加者

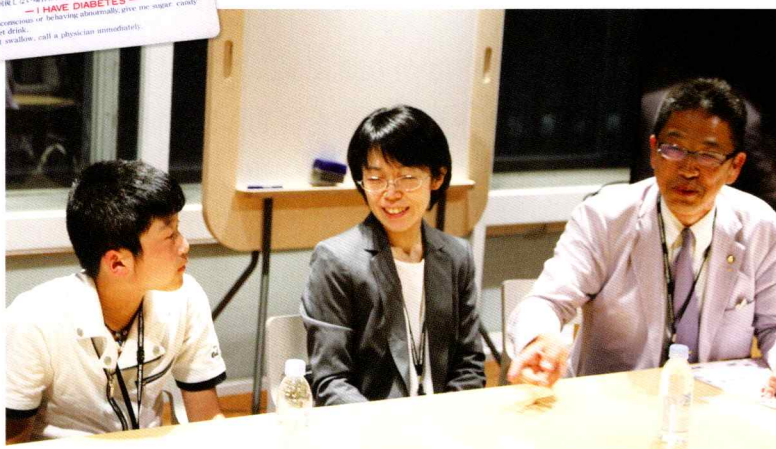
徳畑さん、徳畑^{かい}開くん(参加家族、中2)
 涌井さん、涌井^{よし}貴隆くん(参加家族、小5)
 立川恵美子先生(東京女子医科大学小児科、つぼみの会ひまわりグループキャンプ実施責任者)
 澤田章司先生(日本学校歯科医会 常務理事)
 冠利江さん(つぼみの会事務局、日本初のキャンプ参加者)
 堀田裕子さん(公益社団法人日本糖尿病協会事務局)

(取材、文：TOOTH FAIRYスタッフ)

1型糖尿病ってどんな病気？

——はじめに、小児(1型)糖尿病は、
どんな病気が教えてください。

立川先生：何らかの理由で身体の免疫細胞が壊され、細胞内に糖を運ぶインスリンがなくなってしまうたり、極端に少なくなってしまうのが1型糖尿病です。インスリンがなくなってしまうと高血糖の状態となり、身体の正常な機能が保てなくなる恐れがあります。日本では糖尿病というと、生活習慣に起因する2型が全体の95%を占めますが、1型は年間5万人に1人が発症し、多くが大人ではなく小さなお子さんです。



涌井貴隆くん

立川先生

澤田先生

——普段の生活で大変なことはありますか？

立川先生：1型糖尿病のお子さんは、日に3～4回、インスリンの自己注射が必要になります。毎回決まった量ではなく、食事や運動、体調などに応じて、調整する必要があります。
開くん：低血糖にならないように気をつけています。学校の友達にも、手足が震えたり、冷や汗がでたりしたら、先生を呼んで、と話しています。



立川恵美子先生

涌井さん：子どもが成長期なので、夜中に体調が急変し、救急車で運ばれたこともありました。

立川先生：糖尿病は生活習慣が原因だね、というイメージが強く、そういった誤解から1型糖尿病のお子さんは過ごし辛さを抱えています。

発症、そして、自己注射

——発症した時のことを教えてください。

開くん：僕は、小学校2年生の5月に発症しました。学校で尿検査をした後、すぐに大きな病院に入院しました。

徳畑さん：それまでは疲れやすかったり、水をたくさん飲んだりしていました。ちょうど運動会の練習をやっていて、そのせいかなと、思っていたんです。

——お母さんは1型糖尿病のことをご存知でしたか？

徳畑さん：知りませんでした。開が入院した時、私は職場にいたんですが、どんな病気なんだろうと、病気のことを調べながら病院に向かいました。

貴隆くん：僕は5歳の時に発症しました。

涌井さん：ずいぶんとお水を飲むので、おかしいなと感じていました。以前、テレビでみた1型糖尿病のお子さんの症状と似ているな、と思い、かかりつけの小児科で血液検査をしてもらったら、その日の内に大きな病院に入院しました。



徳畑開くん



涌井さん



徳畑さん

——開くんと貴隆くんは、急に入院することになって怖くなかった？

開くん：入院はそれほど。それよりも、はじめはインスリン注射が怖かったです。

徳畑さん：学校の先生は医療行為はできないので、退院したら自己注射が必要になります。

開くん：注射をみるのも怖かったけど、入院中、同じクラスの友だちからもらった手紙に励まされました。早く退院したかったし、自分で注射をできるようになりました。

——貴隆くんは発症した時は5歳ですよね？
注射は怖くなかったですか？

貴隆くん：一度看護師さんに注射してもらったら、次から自分できるようになりました

一同：それはすごいね！

貴隆くん：それよりも、給食の後にすぐに遊べないのがいやだな。僕は、配膳当番をして、インスリンを打ってから食べ始めるから、みんなより食べるのが遅くて、たくさん遊べない。

一同：笑





澤田章司先生

涌井さん：貴隆の場合、5歳で発症したので、身体の変化もこころの変化も大きく、反抗期もありました。“どうして自分だけ？”“注射をうちたくない”と、言い出してしまって。親としてどうやって本人に理解してもらって前向きになってもらうか悩みました。何度も何度も息子と話をしました。

立川先生：私たち医師も、病気の治療はもちろんですが、それよりも、病気とつきあっていくことが大切だと患者さんに伝えています。また、学校生活を送る上で、先生方の

協力は欠かせません。インスリンや注射器も、低学年のうちは他のお子さんの手の届く場所には置かず、保健室などで預かっていただいたり、いじめなどがおこらないよう他のお子さんたちへ説明いただくよう、ご協力いただいています。

サマーキャンプの魅力と意義

——開くんと貴隆くんは、サマーキャンプで何が一番楽しかったですか？

ふたり：水風船！めっちゃめっちゃ楽しい！みんなとおもいきり走って、おもいきり遊べる。

一同：笑。

涌井さん：キャンプから帰宅すると、楽しかった、ということしか言いません。この子にとってキャンプは重要な場所なんだな、って思います。

徳畑さん：うちの子もそうです。他のお友だちから、普段の学校での過ごし方を教えてもらったり、インスリン注射の方法を教えてもらったり。キャンプでカレーを作った時、帰宅後に私たちにも作ってくれて、成長したな、って思いました。



——澤田先生は、歯科ボランティアだけでなく、
キャンプにも参加されていますが、
いかがでしたか？

澤田先生：TOOTH FAIRYの事業は、発足当初より日本
学校歯科医会では全面的に協力してまいりました。私たち
は、学校における歯科保健活動をととして全国の児童
生徒へ健康教育を実施し、「生きる力」をはぐくむことがで
きるよう取り組んでいます。

また、現在では、歯科に特化した支援のみならず、「心身
ともに健康な国民の育成を期する」活動が国の指針で示
されています。



そのような中、小児1型糖尿病のサマーキャンプに関わ
る機会が得られ、参加している子どもたち全体、あるいは
個別に指導することが可能となりました。重い病気や障が
いのある子どもたちであっても「志を高く掲げ、力強く生き
る」ことへのサポートをすることは私たちの責務と考えて
います。

キャンプでは、食事、風呂、遊びなど一緒に生活をして
子どもたちとたくさん話しました。将来の夢、なりたい職
業、好きな食べ物など……。子どもとのコミュニケーションが楽しく、前向きに成長して欲しいと願っています。

立川先生：私自身20年近くキャンプに携わっていますが、20年前に参加した子に、スタッフとして再会したり、医
療職についたよと報告してもらえるのが嬉しいですね。

初めて参加する子には、「自分だけじゃないんだ」と知っ
てもらうこと、中高学年の子には病気に対する基礎知識
を身につけてもらい、自己コントロールできるようになっ
てもらうことが大切だと考えています。



冠利江さん

世代をこえて 変わる、つながるキャンプ

——冠さんは、はじめてのキャンプ参加者で、今もキャンプ
の運営に関わっていらっしゃいますが、今と昔、どんな
変化を感じますか？

冠さん：私が参加した50年前のキャンプでは、インスリン
や医療機器の種類は限られていました。注射だって、高価
で針も太くて。選択肢が増えたと感じます。

立川先生：キャンプは今のお薬や最新機器を知ってもら
う機会にもなっています。病気との付き合い方がうまい人
のほうが、生活もしっかりし、治療もコントロールできま
す。また、小児科や内科、眼科、歯科など、糖尿病をとりま
く医療の連携もすすんでいます。

堀田さん：日本糖尿病協会では、キャンプ卒業者に1型糖
尿病のことを社会的に発信してもらう、インスリンメンター
制度をはじめました。同じ世代や同じ病気の子どもたちが
助け合うと同時に、自分たちの住みやすい世界を自分の力
でつくっていくことも大切なんじゃないかと考えています。

立川先生：キャンプを卒業した子も、悩み事があったら
いつでも帰ってきて良いよ、という思いがあります。実際に卒
業したOBOGがスタッフとして参加し、小さい子たちの良
き理解者になってくれています。彼らにとって、キャンプは
特別な場所になっているんじゃないでしょうか。

堀田さん：最初の参加者の冠さんが、今でもキャンプを支
えてくれているのは、大変ありがたいですね。

貴隆くん：僕も大人になっても参加したい。小さい子の面
倒とかみたいです！

——将来が楽しみです、
今日はありがとうございました。



難病の子どもと家族のための TOOTH FAIRY 支援施設

北海道
そらぷちキッズキャンプ
医療設備を完備した難病児専用キャンプ場
(支援年度/2014、2016年度)

宮城県
あっと名取
多職種で難病の子どもと家族を支える場所
(支援年度/2014年度)

栃木県
うりずん
地域と連携し在宅で闘病する子どもと家族を支える場所 (支援年度/2015年度)

山梨県
あおぞら共和国
大自然のなかで気兼ねなく家族旅行を楽しむ場所 (支援年度/2015年度)

奈良県
奈良親子レスパイトハウス
東大寺境内にある家族の絆を深める場所
(支援年度/2014年度)

兵庫県
チャイルド・ケモ・ハウス
小児がんになっても笑顔で育つための
滞在型専門治療ハウス (支援年度/2013年度)

熊本県
ボンボン
通所する子どもたちが
楽しい時間を過ごす場所
(支援年度/2014、2017年度)

口腔ケアボランティア 協力歯科医師、歯科医師会(国内)

**小児(1型)
糖尿病キャンプ**
協力歯科医師 歯科衛生士
(13ヶ所、17名、1歯科医師会)

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
石黒 慶史	医療法人社団敬愛会 石黒歯科・矯正歯科医院	山形県
菅原 里香	医療法人社団敬愛会 石黒歯科・矯正歯科医院	山形県
澤田 章司	澤田歯科医院	静岡県
奥 忠之	奥歯科医院	大阪府
今井 敦子	いまい歯科	大阪府
小穴 実	堀金歯科医院	長野県
澤武 愛里	宮本歯科医院	長野県
澤田 章司	澤田歯科医院	東京都
伊藤 道子	ひまわり歯科	熊本県
原瀬 忠広	医療法人 原瀬歯科医院	愛媛県
松見 秀之	松見歯科医院	埼玉県
南部 貴志	医療法人社団TDC 高橋歯科医院	大分県
岡本 好史	一般社団法人徳島県歯科医師会	徳島県
野上 俊雄	野上歯科医院	茨城県
奥 淳一	奥 歯科医院	鹿児島県
葉 清貴	ハートデンタルクリニック	鹿児島県
黒瀬 真由美	PMJ歯科診療所	岡山県

**難病児と家族のキャンプ
がんばれ共和国**
協力歯科医師(2ヶ所、3名)

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
増井 峰夫	増井歯科医院	神奈川県
伊藤 明彦	伊藤歯科医院	熊本県
伊藤 道子	ひまわり歯科	熊本県

**ウィリアムズ症候群の子どもと
家族のミュージックキャンプ**

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
吉川 正芳	明海大学歯学部歯科矯正学分野	東京都

障がい者トップアスリートへの 歯科支援

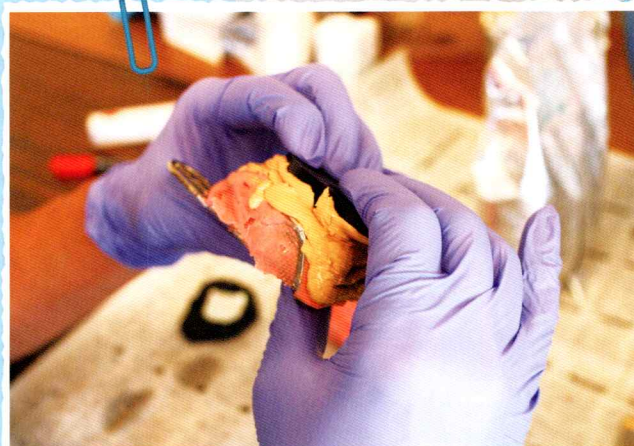
2020年のオリンピック・パラリンピックを目前に控え、
各競技で活躍する選手へ寄せられる期待も
日ごと高まってきました。

TOOTH FAIRYは昨年度につづき、東京歯科大学と連携して、
一流のパラスポーツアスリートたちへ、
マウスガードの作製やスポーツ歯科と障がい者歯科の
講義をおこないました。

子どもたちの憧れとなるヒーローたちの活躍が、楽しみです。



ブラインドサッカーの選手、コーチらへの
歯科講話。接触や転倒の多い競技のため、
選手も真剣に耳を傾けます。



作製途中のマウスガード。選手ごとに、
丁寧に型取り作製しました。



スキーと射撃を交互に行う、過酷な競技・バイアスロンの選手は、
音での位置を特定します。競技によって力のかけ方や身体の構え
が異なるため、選手にあったマウスガードが必要です。

私がミャンマーに行く理由

ミャンマー歯科ボランティアツアーで呼び起こされるもの



インタビュー
歯科医師
(小山歯科医院／静岡県浜松市)
小山 和彦



“電気も水道もない、歯科医師もいないミャンマーの村へ、口腔ケアボランティアに行きませんか？”医院に送られたチラシに、小山和彦歯科医師はすぐに申込書を送った。

申込んだきっかけは「ミャンマーという国への好奇心。人を物を生活を自分の目で確認してみたい」という思いだった。2013年にはじめてミャンマーの地へ足を踏み入れ、以降、すべてのツアーに参加を続けている。

「毎年1週間ほど仕事を休むことになるけれど、クリニックのスタッフたちに後押ししてもらい、感謝しながら毎回参加しています」とほがらかな笑みをうかべ、語った。

小山歯科医師他、一行が訪れるのは、急速な経済成長を遂げるヤンゴンから遠く離れた、山岳地帯や農村地帯だ。村の生活は、けっして豊かとはいえない。しかしながらも、そこで明るく暮らす人々との出会いや家庭料理など振舞われながら、本当の幸せとはなんだろう。と考えさせられたという。

「1年経つと『また彼らの純真な笑顔に会いに行こう』と思うんです。私たちの訪問を心待ちにしてくれている彼らと会うことで、一方的な支援では得られない真心の交流をするために」

翌年も、またその翌年も訪れると、彼らも自分たちのことを覚えてくれ、歯ブラシを手に歓談する。そんなひと時が何よりうれしいと、何度も足を運ぶことになった。

4度目の訪問後、小山歯科医師は現地で行った歯科検診のレポートをまとめた。

結果は、めざましい発展のまっただ中にある街の子どもたちよりも経済成長の恩恵を未だ受けずにいる村の子どもたちの方が、歯の状態が良好だと改めてわかった。

村の子どもたちのもつ歯ブラシは、靴磨きのような大きいブラシを家族で1本だけしかもてないこともあり、毛先が開ききっているのもザラだ。加えて、夜は真っ暗、山間部であれば水をすぐためるの水も貴重となる。

それでも想像したほど歯の状態は悪くなかった。むしろ街に住んでいる子どもたちは甘いものを食べる機会も多く、歯が悪くなりがちというデータが出た。





レポートをもとに、現地NPOを通して、歯の磨き方を記載したニュースレターを村や学校に配布した。母親や教師に特に喜ばれた。予防歯科の概念があまり浸透していないミャンマーにおいて、う蝕によるむし歯の正しい知識を説き、歯磨きの励行を訴えていくことが必要だと、小山歯科医師は語った。

小山歯科医師の活動は、ミャンマーだけにとどまらない。2017年7月、母校である朝日大学にて、歯科医師の国際貢献をテーマとした授業の一環として、新1年生を対象に、自身の体験を語り、後輩たちへ啓発もおこなっている。

6度のミャンマー訪問を通じて、小山歯科医師は語る。「歯科医師は自らの医院にすることが多いが、日本にだけでなく、広い世界を知ってほしい。一緒に子どもたちに会いに行きましょう」

(取材、文：TOOTH FAIRYスタッフ)
小村悠子

2017年度ミャンマー口腔ケアボランティア 協力歯科医師(17名)

氏名	医院名/歯科医師会名	都道府県
明石 雅江	赤荻歯科医院	岩手県
猪狩 哲明	いかり歯科医院	東京都
石田 綾子	石田歯科クリニック	埼玉県
井出 壹也	いで歯科医院	千葉県
伊藤 雅夫	イトウ矯正・小児歯科	兵庫県
伊藤 道子	ひまわり歯科	熊本県
梅津 謹也	汐見台歯科医院	宮城県
江並 正博	江並歯科医院	大阪府
大野 眞吾	大野歯科医院	大阪府
大野 倫子	大野歯科医院	大阪府
小家 雅子	ホリデーデンタルクリニック	岩手県
小山 和彦	小山歯科医院	静岡県
坂口 智計	とも歯科医院	兵庫県
角町 正勝	角町歯科医院	長崎県
原 正紀	まさき歯科	岐阜県
前田 龍一	前田歯科医院	兵庫県
山崎 猛男	さくら歯科	宮城県

敬称略 順不同



朝日大学での講義

TOOTH FAIRYのミャンマー学校建設

TOOTH FAIRYの学校建設事業は、村の農園経営など地域開発事業も同時に実施。村全体が持続的に学校を運営できる環境を整備しています。2017年度は新たに6校開校し、これまでに建設した学校は36校となりました。



「子どもの笑顔はなによりの宝物。すてきな笑顔を守るためにも、TOOTH FAIRYの活動を通して、日本とミャンマーの交流を深めたい」と祝辞をいただきました。

TOPICS ①

2018年5月、ミャンマー南西部イラワジ地域にあるタイェッゴン中学校・セップーニーBranch中学校にて、開校式を開催。日本歯科医師会より瀬古口精良常務理事にご臨席いただきました。



TOPICS ②

今回で第6回となるTOOTH FAIRY歯科医師によるボランティアツアーを実施。17名の歯科医師が、学校を訪問し、歯科健診など口腔ケア指導をおこないました。今回は、地元の歯科医師や学校の教師らと協力し、フッ素うがいの方法も伝えました。



シャン州に
10校建設

イラワジ地区に
26校建設

国内 難病児と家族の支援

病院、施設、自宅で子どもの成長を支えとりくみ

内 容	団体名	成 果
クリニックラウン (病院を訪問する道化師)による 子どもの成長サポート	(特)日本クリニックラウン協会	クリニックラウンの派遣(計50回) (1)時期:2017年4月~2018年3月 (2)場所:全国18病院(大阪大学医学部附属病院 他) (3)対象:小児病棟に入院している子ども1500名とその家族
	(特)クラウンボランティア・ ティアドロップ	ボランティアによるクラウンの派遣(毎月1回) (1)時期:2017年4月~2018年3月 (2)場所:大分県立病院小児科病棟、大分大学医学部附属病院小児病棟 (3)対象:小児病棟に入院している子ども960名
ファシリテッドッグを 病院に届ける活動	(特)シャイン・オン・キッズ	1. ファシリテッドッグとハンドラーの派遣(常勤) (1)時期:2017年4月~2018年3月 (2)場所:静岡県立こども病院、神奈川県立こども医療センター (3)対象:小児病棟に入院している子ども700名 2. ファシリテッドッグ写真展の開催 (1)時期:2018年2月 (2)場所:東京国際フォーラム (3)対象:会場近郊の一般来場者1,500名
入院中の子どもたちにビーズを届ける活動	(特)シャイン・オン・キッズ	小児がんの子どもが治療に前向きに取り組むための「ビーズ・オブ・カレッジ(勇気のビーズ)」の提供 (1)時期:2017年4月~2018年3月 (2)場所:全国18病院(東京都立小児総合医療センター等) (3)対象:小児病棟に入院している子ども250名
芸術プログラムを病院、施設等に届ける活動	(特)スマイリング・ホスピタル・ ジャパン	登録アーティストによる芸術プログラムの提供 1. 時期:2017年4月~2018年3月 2. 場所: (1)病院(13ヶ所、日本赤十字社医療センター小児病棟等) 施設・こどもホスピス(13ヶ所、日本赤十字社医療センター付属乳児院等) 在宅訪問 (2)対象:入院、入所、在宅にて医療を受けるこどもとご家族7,000名
芸術プログラムを 病院に届ける活動	(特)OnPal	1. プロの音楽家による音楽授業(6回) (1)時期:2017年4月~2018年3月 (2)場所:九州大学病院小児医療センター、福岡市立こども病院 (3)対象:小児病棟に入院している子ども90名 2. プロの音楽家によるコンサート(4回) (1)時期:2017年4月~2018年3月 (2)場所:九州大学病院小児医療センター、福岡市立こども病院 (3)対象:小児病棟に入院している子ども180名とその家族
スポーツプログラムを 病院内学級に届ける活動	(特)Being ALIVE Japan	スポーツプログラムの実施計28回 1. 時期:2017年4月~2018年3月 2. 場所:国立成育医療研究センター病院内学級 3. 対象者:延べ840名
ホスピタル・プレイ・スペシャリストによる遊びのワークショップ	(特)ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援 を考える会	遊育支援ワークショップ 1. 日時:2017年8月、10月 2. 場所:愛知、鹿児島 3. 参加者:難病の子どもとそのきょうだい、家族各回25家族×2回 4. 内容:約10種類の遊びのブースを用意し、難病の子どもとその家族に遊びのプログラムを提供

障害者トップアスリートへの歯科支援

障害者トップアスリートへの
歯科支援

(公財)日本財団、東京歯科大学

1. 内容:
(1)口腔の怪我予防のための口腔健診、講演会等の開催
(2)障がい者スポーツ選手および団体へのマウスガードの作製
2. 事業期間:2017年9月5日-2018年3月31日

ミャンマー学校建設

ミャンマーにおける
地域参加型
学校建設・運営事業

(特)れんげ国際ボランティア会

1. 地域住民参加型の学校建設
(1)建設数:6校
(2)建設地:イラワジ地域の5タウンシップ
(ニャウンドン、ジャウンゴン、チャイラツ、ミャウミヤ、パンタノウ)
2. 持続的 school 運営のための村落開発収益事業
(1)対象:学校建設実施の6村
(2)事業内容:村の状況・希望に応じた農村開発事業(共同水田、高校生寮運営等)

旅行やキャンプを通じた子どもと家族を支えとりくみ

内 容	団体名	成 果
医療的ケアの必要な子どもと家族のファミリーレスパイト旅行	(特)びわこファミリーレスパイト	1. 家族ごとの宿泊レスパイトの実施 (1) 時期：2017年4月 (2) 場所：滋賀県大津市(比叡山延暦寺周辺) (3) 対象：重症心身障害児とその家族1組6名 2. グループによる日帰りレスパイトの実施 (1) 時期：2017年12月 (2) 場所：滋賀県草津市 (3) 対象：重症心身障害児とその家族15組45名 3. グループによる宿泊レスパイトの実施 (1) 時期：2017年6月 (2) 場所：沖縄県国頭郡本部町 (3) 対象：18トリソミーの子どもとその家族10組40名
難病の子どもと家族のファミリーレスパイト(ウィッシュ・バケーション)	(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	1. 難病と闘う家族への旅行の提供 (1) 時期：通年 (2) 場所：千葉や大阪テーマパーク、沖縄、福山、島根、富山他 (3) 対象：難病の子どもとその家族30家族 2. ホームパーティプログラムの提供 (1) 時期：通年 (2) 場所：難病を患う子どもがいるご家庭または、子どもが入院している病院内 (3) 対象：外に出ることができない病気の子どもの家族、親戚、関係者10家族 3. 難病の家族と社会とのつながりの場の提供 (1) 時期：通年 (2) 場所：東京、大阪、仙台、福岡、沖縄 (3) 対象：難病を患う子どもとその家族、個人及び企業の支援者
難病の子どもと家族の交流キャンプ(サマーキャンプ「がんばれ共和国」)	(特)難病のこども支援全国ネットワーク	サマーキャンプの実施 1. 時期：2017年8月 2. 場所：神奈川県足柄上郡、熊本県阿蘇市、沖縄県国頭郡合計3カ所 3. 対象：難病の子どもと家族300名、ボランティア150名
難病の子どもと家族の交流キャンプにおける熱気球の乗船体験	(一社)Orange Kids' Care Lab	軽井沢キッズケアラボにおける熱気球乗船体験の提供 (1) 時期：2017年7月～8月 (2) 場所：長野県軽井沢 (3) 対象：難病の子どもとその家族及び地域住民216名 (4) 内容：a. 熱気球の乗船 b. 地元住民との交流会
闘病生活のストレスを和らげるレスパイトキャンプ	(公財)そらぶちキッズキャンプ	レスパイトキャンプの実施 (1) 時期：2017年9月(3泊4日) (2) 場所：そらぶちキッズキャンプ(北海道滝川市丸加高原) (3) 対象：難病と闘う子どもと家族(2家族10名程度)
難病の子どもと家族の交流イベント	(特)日本グッド・トイ委員会	難病児とその家族のための「東京おもちゃ美術館」貸切イベントの開催 1. 時期：2017年7月6日(2回)、10月26日(2回) 2. 場所：東京おもちゃ美術館 3. 対象：在宅治療中の難病児とその家族(20家族/回) 4. 内容：手作りおもちゃワークショップ、アイリッシュハーブミニコンサート、ママのためのくつろぎコーナー、各専門家によるお気軽相談コーナー
1型糖尿病の子どもの自己管理能力を高める学習キャンプ	(公社)日本糖尿病協会	1型糖尿病の子どもの自己管理能力を高める学習キャンプの実施 1. 時期：通年 2. 場所：全国約50ヶ所の野外活動ができる宿泊施設 3. 対象：小児期発症の1型糖尿病患児(約1,100名)、ボランティアスタッフ(医療者、OBOG等/約4,500名)
ウィリアムズ症候群の子どもと家族のためのミュージックキャンプ	(特)Smirhythm	ウィリアムズ症候群の子どもと家族のためのミュージックキャンプ 1. 時期：2017年5月4日～5月5日(1泊2日) 2. 場所：高尾の森わくわくビレッジ(東京都八王子市) 3. 対象：ウィリアムズ症候群の子どもと家族

難病の子どもと家族の支援の輪を広げとりくみ

映画「Given」啓発活動	(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	映画「Given～いま、ここ、にあるしあわせ～」上映プロジェクト 1. 時期：通年 2. 場所：全国の小、中、高、大学、大学院、専門学校等 3. 対象：小学1年生～大学4年生、大学院学生、専門学校生等
---------------	--------------------	--

難病の子どもと家族のための施設等を整備するとりくみ

難病の子どもと家族の交流キャンプで用いる熱気球の整備	(特)難病のこども支援全国ネットワーク	熱気球の整備 1. 時期：2018年3月 2. 整備先：茨城県古河市中田1495-2 3. 整備機器：熱気球1機
熊本地震により被災した小児レスパイト施設の修繕	(認特)NEXTEP	小児レスパイト施設(障害児通所支援施設ボンボン)の修繕 1. 場所 熊本県合志市幾久富1123-5 2. 修繕箇所 a. クロス張替え(天井、壁)、 b. クロス部分クラック補修 c. デスクカウンター補強工事、 d. 左官工事：浴室タイル目地補修 e. 外部工事：駐車場アスファルトへこみ部分補修

都道府県別 参加歯科医院数

都道府県	参加歯科医院数
北海道	221 (2)
青森県	60 (2)
岩手県	82 (1)
宮城県	106 (4)
秋田県	40 (1)
山形県	72 (1)
福島県	79 (1)
茨城県	121 (4)
栃木県	121 (26)
群馬県	93 (2)
埼玉県	221 (10)
千葉県	206 (9)
東京都	594 (16)
神奈川県	417 (2)
新潟県	142 (1)
富山県	32 (3)
石川県	58 (1)
福井県	30 (7)
山梨県	40 (0)
長野県	122 (2)
岐阜県	128 (3)
静岡県	201 (0)
愛知県	400 (0)
三重県	79 (9)
滋賀県	92 (75)
京都府	160 (6)
大阪府	562 (2)
兵庫県	318 (0)
奈良県	90 (1)
和歌山県	298 (2)
鳥取県	26 (2)
島根県	34 (0)
岡山県	85 (1)
広島県	167 (1)
山口県	67 (0)
徳島県	42 (4)
香川県	69 (1)
愛媛県	60 (0)
高知県	40 (0)
福岡県	198 (0)
佐賀県	117 (6)
長崎県	161 (2)
熊本県	106 (5)
大分県	49 (1)
宮崎県	56 (2)
鹿児島県	99 (1)
沖縄県	33 (3)

※()内は2017年度の数字

全国合計
参加歯科医院数

6,594 (222)

TOOTH FAIRY応援歯科医師会・歯科大学同窓会

歯科医師会	都道府県
東海市歯科医師会	愛知県
河内長野市歯科医師会	大阪府
山県歯科医師会	岐阜県
中京歯科医師会	京都府
小城多久歯科医師会	佐賀県
伊都歯科医師会	和歌山県
唐津東松浦歯科医師会	佐賀県
和歌山市歯科医師会	和歌山県
SDB会	大阪府
埼玉歯科医師会	埼玉県
入間郡市歯科医師会	埼玉県
目黒区歯科医師会	東京都
歯科大学同窓会	都道府県
福岡歯科大学長崎県支部同窓会「歯ってん会」	長崎県

※応援歯科医師会とは？

歯科医師会全体で活動に賛同し、積極的に応援していくと表明していただいた団体。会でのご寄付、ご支援をいただいております。

TOOTH FAIRY協賛企業・団体 (敬称略・順不同)

株式会社ウィルアンドデンターフェイス
一般社団法人プラスマレーザー研究会
POIC®(専門的口腔感染症予防)研究会
相田化学工業株式会社
アサヒブリテック株式会社
松田産業株式会社

メディア掲載

タ刊フジ (5月26日「魔法の社会貢献」)
日歯広報 (6月1日号「日本財団と日歯、ミャンマー訪問TOOTH FAIRYプロジェクト」)
産経新聞 (6月4日「子どもたちに笑顔を、歯医者さんの団結力」書籍紹介)
琉球新報 (7月27日「家族みんな主人公に 病児・重度障がい児サマーキャンプ」)
デンタルダイヤモンド (8月号「スポーツを支える歯科医療 パラアスリートへの歯科的支援」)
南日本新聞 (1月4日「金・銀歯で難病の子支援」)

寄付金属リサイクル換金結果

	寄付金額	寄付件数合計	総重量	受付期間
第24回	82,214,101円	892件 参加歯科医院 ……826件 個人 ……66件	226.95kg	2017年2月4日～ 2017年11月17日
第25回	78,022,206円	789件 参加歯科医院 ……774件 個人 ……15件	204.456kg	2017年11月18日 ～2018年2月21日

収支報告（至2017年4月1日～2018年3月31日）

1. 収入の部	(単位: 円)
歯科撤去金属売却収入 ※1	165,564,624
現金寄付金収入	1,025,646
前期返還金 ※2	2,738,220
前期繰越額	259,304,714
当期収入合計	428,633,204

※1 金属換金額から預かり消費税相当額を除いた金額を計上。

※2 2016年度チャレンジキッズプロジェクト「4. 難病の子どもと家族のための施設等を整備する取り組み(そらぶちキッズキャンプ)」
「3. 難病の子どもと家族の支援の輪を広げる取り組み(難病のこども支援全国ネットワーク)」の内、経費の削減等により、2,738,220円の余剰が発生したため、前期返還金として2017年度収入に計上致しました。

2. 支出の部	(単位: 円)
事業支出合計	125,687,790
換金手数料 ※3	5,328,317
当期支出合計	131,016,107
次期繰り越し金額	297,617,097

3. 事業支出内訳 (単位: 円)

病院、施設、自宅で子どもの成長を支えとりくみ

(特)日本クリニックラウン協会	3,411,000
(特)クラウンボランティア・ティアドロップ	800,000
(特)シャイン・オン・キッズ	12,000,000
(特)シャイン・オン・キッズ	4,500,000
(特)スマイリング・ホスピタル・ジャパン	4,500,000
(特)OnPal	480,000
(特)Being ALIVE Japan	2,961,000
(特)ホスピタル・プレイ協会 すべての 子どもの遊びと支援を考える会	2,300,000

旅行やキャンプを通じた子どもと家族を支えとりくみ

(特)びわこファミリーレスパイト	2,600,000
(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	9,000,000
(特)難病のこども支援全国ネットワーク	11,797,000
(一社)Orange Kids' Care Lab	1,950,000
(公財)そらぶちキッズキャンプ	2,000,000
(特)芸術遊び創造協会	1,720,000
(公社)日本糖尿病協会	8,000,000
(特)Smirhythm	850,000

難病の子どもと家族の支援の輪を広げとりくみ

(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	2,000,000
--------------------	-----------

難病の子どもと家族のための施設等を整備するとりくみ

(特)難病のこども支援全国ネットワーク	8,500,000
(認特)IVEXTEP ※3	588,600

障害者トップアスリートへの歯科支援

(公財)日本財団	1,321,950
----------	-----------

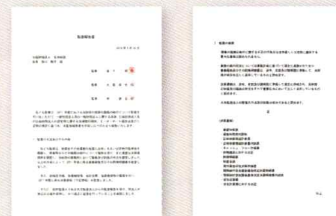
ミャンマーにおける地域参加型学校建設・運営事業 ※3

(特)れんげ国際ボランティア会 ※4	44,408,240
--------------------	------------

※3 本事業は当初2016年度に実施予定でしたが、工期延長等に伴い2017年度に実施したため、2017年度支出に計上しました。

※4 414,000米ドルで算出。為替レートは1\$=120円で換算。

2017年度 監査報告書



笹川会長(後列中央)と
ドネーション事業部
オールスタッフ
(TFスタッフは内3名)

スタッフからのご挨拶

たくさんの歯科医師の皆様、患者様に支えられ、TOOTH FAIRYの活動も10年目に突入しました。お子さんたちやご家族の笑顔、支援パートナーの熱い想い、そして何より、寄付やボランティアでご支援いただく歯科医院の皆様の声に励まされ、まい進してきた10年だったと感じます。病気があっても、国は違っても、どんな子どもたちもたくさんの方々の愛情につつまれ、健やかに育ててほしいと、願う毎日です。私たちの活動を共に応援していただく皆様のお気持ちに、改めて感謝申し上げます。

皆様のご参加、お申込みお待ちしております

キリトリ線

TOOTH FAIRY ウェブサイト内に、 貴歯科医院の情報を掲載しませんか？



メッセージや写真で、
子どもたちを
応援してください！

※お写真はホームページ上から追加できます。

診療科目 ☐ 歯科 ☐ 矯正歯科 ☐ 歯科口腔外科 ☐ 小児歯科

※診療科目にチェックをつけてください。

診療時間

※記入例：平日 10～13 時、14～18 時 日祝休

子どもたちと家族へ
応援メッセージ

歯科医院名・住所などを HP や新聞などで紹介し、顕彰いたします。

☐ ホームページ等での公開を希望しない

※公開を望まない場合は、☐ にチェックを付けてください。

その他ご意見などございましたらご記入願います。

キリトリ線